

1. 略歴

- 1987年3月 京都大学文学部卒業（文学士）
- 1989年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
- 1990年3月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
- 1990年4月 神戸大学教養部助手
- 1991年10月 神戸大学教養部講師
- 1992年10月 神戸大学文学部講師
- 2000年10月 神戸大学文学部助教授
- 2000年4月 文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001年2月まで）
- 2007年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18世紀の文学・思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学・自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語・芸術観が興味を中心にあつた。また、その問題意識を継承する20世紀の文学者・思想家の系譜も研究の対象となつた。現在は、啓蒙期の文学・思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18世紀以後、ドイツ語圏にあつて、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であつた人々―ハラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニムから現代にいたるまで―の営みを〈実験者の文学〉という観点から跡付けるという作業を進めている。

c 主要業績

(1) 著書

共著、宮田眞治、『文学と映画のあいだ』、東京大学出版会、2013.6

(2) 論文

宮田眞治、「イエナ・ロマン主義における〈能動・受動〉モデルの問題」、『ヘーゲル哲学研究』、Vol.18、19-32頁、2012.12

MIYATA, Shinji: Zur Figur des Fremden in der Chrono-Topographie Lichtenbergs. In Dogilmunhak. Koreanische Zeitschrift für Germanistik. Vol. 54, no. 128. S.77-90, 2013/12

(3) 国際会議での発表

MIYATA, Shinji: Zu Figur des Fremden in der Chrono-Topographie Lichtenbergs. in: Das 20. Sorak-Symposium 2013 "Globalisierung und Literatur", Hotel Kolon, Gyeongju, Korea, 2013/09/28

(4) 会議主催(チェア他)

国内、「第54回ドイツ文化ゼミナール」、実行委員長、IPC 生産性国際交流センター（神奈川県三浦郡葉山町）、2012.3.10～2012.3.16

国内、「第55回ドイツ文化ゼミナール」、実行委員長、長野県茅野市 リゾートホテル蓼科、2013.3.24～2013.3.30

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本独文学会、文化ゼミナール担当理事、2013.5～

国内、日本シェリング協会、理事、2008.10～